

夏季イベント等開催時の熱中症対策チェックリスト

運営上のポイント・危機管理体制

傷病者発生時の連絡フロー及び必要となる連絡先を連絡系統図として作成・共有する。
(傷病者発生時の対応責任者、通報、搬送などの対応スタッフを具体的に明示)

傷病者の発生場所の特定方法、搬送ルートを定める。

傷病者発生時の緊急対応フローを作成する。

イベントを中止する基準と中止の判断をする責任者、中止した場合の対応を定める。

熱中症患者に対応するために、冷たい飲料や涼しい休息場所を確保する。

救護所を設置する、又はスタッフに熱中症に対する知識を身に付けさせる。

熱中症対策の広報文やイベントの進行に合わせた広報シナリオ等を作成する。

暑熱環境の把握とその緩和

待機列を作らない工夫や日陰への誘導を行う。また、開場時、終了時の混雑緩和に配慮する。

給水所や救護所などの施設の明示や、スタッフの存在をわかりやすくする。

イベント参加者が休憩できる場所の確保や、日除けやミストなどの暑さを緩和するための設備を設置する。

適切な呼びかけ・啓発の実施

イベント開催のパンフレットやプログラムなどの配布物に熱中症の予防対策を記載するほか、熱中症の予防、早期発見、初期対応を記したポスターや注意書きを掲示する。

リアルタイムの暑さ指数(WBGT)の広報のほか、28℃や31℃以上の時は注意報や警報を発信し、広報は待機時間、休憩時間等で参加者がイベントに集中していない時間帯に行う。

スタッフへの対策

全てのスタッフに熱中症の予防、熱中症の初期症状、早期発見、初期対応、救急処置に関する教育を行う。

定期的にスタッフの健康状態の巡視を行い、水分や塩分の摂取状況を確認するほか、短時間での勤務交代や、涼しい休憩場所を設置する。



緊急時の応急処置

もし、あなたのまわりの人が具合が悪くなってしまったら……。
落ち着いて、状況を確認してから対処しましょう。最初の措置が肝心です。

傷病者の発生

チェック1

熱中症を疑う症状がありますか？

(めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温)

はい

チェック2

呼びかけに応えますか？

はい

涼しい場所へ避難し、
服をゆるめ体を冷やす

チェック3

水分を自力で摂取
できますか？

はい

水分・塩分を補給する

チェック4

症状がよくなりましたか？

はい

そのまま安静にして
十分に休息をとり、
回復したら帰宅しましょう

いいえ

救急車を呼ぶ

救急車が到着するまでの間に
応急処置を始めましょう。
意識がないのに無理に水を
飲ませてはいけません

涼しい場所へ避難し、
服をゆるめ体を冷やす

氷のう等があれば、首、脇の下、
太腿のつけ根を集中的に冷やしましょう

医療機関へ

本人が倒れたときの状況を知っている
人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう



大量に汗をかいている場合は、塩分が入ったスポーツドリンクや経口補水液、食塩水がよいでしょう



救急車を呼ぶか
迷ったときは

■横浜市救急相談センター（年中無休・24時間対応）#7119 または 232-7119

■横浜市救急受診ガイド

パソコンやスマートフォンで、急な病気やけがの緊急性を確認できます。

※各区消防署で、冊子版も配布しています。 [横浜市救急受診ガイド](#)

検索

